

## 施策111 災害から地域を守る人づくり

↑ 施策の番号と名称を記載しています。

この施策が寄与すると考えられる SDGs の 17 の  
ゴール（目標）をアイコンで示しています。→



### 県民の皆さんとめざす姿

多くの防災人材が地域で活躍する中、県民の皆さん一人ひとりの防災意識が防災行動へと結びつき、助け合いや支え合いによる災害に強い地域づくりが進んでいます。

↑ 県民の皆さんとめざす、施策の行動計画期間内（4年後）の目標を記載しています。

### 現状と課題

- 近い将来に発生が予想される南海トラフ地震や、近年、激化の様相を見せる集中豪雨などの自然災害に備えるためには、「自助」「共助」「公助」が一体となった取組を進めることが必要ですが、東日本大震災の発生から5年あまりが経過し、県民の皆さんの防災に関する危機意識は年々低下する傾向にあります。
- 防災に関する危機意識が低下する中で、地震や台風などの災害発生時において、被害を最小限に抑えるためには、県民の皆さん一人ひとりの「自助」や「共助」の取組を促進し、防災に関する意識を高め、「防災の日常化」の定着をめざした取組をこれまで以上に進める必要があります。
- 「防災の日常化」の定着を図るためには、「自助」「共助」「公助」のそれぞれの取組を実践し、その活動を支援・補完することのできる「防災人材づくり」を進めることが重要なことから、今後は、防災人材の育成と、育成した人材が地域でより活躍できる環境づくりを進めていくことが求められています。
- 地域において「共助」の取組を促進するには、「組織の力」の活用が重要であり、消防団や自主防災組織の充実強化と連携強化を進め、これらの取組を融合させながら、地域防災力向上の核となる枠組みの構築を進めていくことが必要です。
- 自然災害から子どもたちの命を守るため、防災学習教材の充実や教職員の防災に関する知識の向上等に引き続き取り組み、学校における防災教育を推進していく必要があります。
- 学校における防災教育の成果を、世代を超えて次代につなげていく必要があります。
- 大規模災害発生時にボランティアやNPOが円滑に活動できる環境の整備や、関係者（市町・市町社会福祉協議会・NPO等）の「顔の見える関係づくり」が必要です。  
↑ この施策を取り組むにあたって、これまでの取組をふまえて現在の状況や解決しなければならない課題を記載しています。

### 新しい豊かさ・協創の視点

近い将来において発生が予想される南海トラフ地震や、年々勢力を増す台風、激化する集中豪雨など、「必ず起こる」災害に対し、誰もが不安を感じることなく、安心して暮らすことのできる社会に向け、防災・減災対策の取組を通じて県民の皆さんの防災意識を向上させ、家族の絆や地域とのつながりを深めることにより、県民主体の災害に強い社会づくりを進めます。

↑ 新しい豊かさ・協創の視点から、この施策での方向性を記載しています。

政策体系におけるこの施策の位置づけ（施策が属する政策）を示しています。→ 政策 I-1 防災・減災  
この施策を担当する部局名を記載しています。→ 主担当部局：防災対策部

### 取組方向

- 基本事業 1 防災人材の育成・活用  
自主防災組織のリーダー育成、消防団と自主防災組織の連携強化、防災教育の充実のためのコンテンツ作成、企業における防災関係の取組の支援など、「みえ防災・減災センター」と連携し、地域における防災人材の育成と活躍を支援します。
  - 基本事業 2 学校における防災教育の推進  
防災ノート等の防災学習教材や防災教育・防災対策に関する教職員への研修を充実するなど、「みえ防災・減災センター」等と連携して、学校における防災教育を推進するとともに、学校と家庭、地域が連携した取組を進めます。
  - 基本事業 3 災害ボランティアの活動環境の整備  
「三重災害ボランティア支援センター」の運営体制強化と、大規模災害時にボランティアや NPO が円滑かつ効果的に支援活動を行うための取組を進めます。
- ↑ 新しい豊かさ・協創の視点をふまえ、めざす姿を実現するために、県がこの施策で4年間に取り組むことを記載しています。

主指標（仮称）			
目標項目	現状値	令和5年度の目標値	目標項目の説明
率先して防災活動に参加する県民の割合	47.7%	60.0%	過去1年間に地域・職場での防災活動に参加したことがある県民の割合（防災に関する県民意識調査）
↑ 施策の成果をあらわす代表的な指標を示します。	↑ 現在（最新の実績）の数値を示しています。 <sup>注1</sup>	↑ 令和5年度における目標値を示しています。 <sup>注2</sup>	↑ この数値目標の意味、内容、用語の説明などを記載しています。

副指標（仮称）			
目標項目	現状値	令和5年度の目標値	目標項目の説明
「みえ防災人材バンク」登録者の活動件数	-	300件	「みえ防災・減災センター」が育成した「みえ防災人材バンク」登録者が、地域や事業所等においてさまざまな防災・減災活動を支援した件数
↑ 施策を適切に評価する際に、「主指標」を補足するのにふさわしいもので、県の取組の効果がわかる代表的な指標を示します。	↑ 現在（最新の実績）の数値を示しています。 <sup>注1</sup>	↑ 令和5年度における目標値を示しています。 <sup>注2</sup>	↑ この数値目標の意味、内容、用語の説明などを記載しています。

注1）現時点で、令和元年度の現状値の把握が困難な指標について、把握可能な最新年度の数値を用いた場合は「(〇年度)」と記載しています。  
注2）令和5年度の取組結果を評価する時点（令和6年5月頃を予定）で、令和5年度実績の把握が困難な指標については、把握可能な最新年度の実績により評価することとし、評価に用いる対象年度について「(〇年度)」と記載しています。